

第53番 圓明寺

●愛媛県松山市和気町1-182
☎089-978-1129
●宿坊／なし

第54番 延命寺

●愛媛県今治市阿方甲636
☎0898-22-5696
●宿坊／なし



沿線の見どころ



道の駅 風早の郷 風和里

週末ともなれば多くのツーリング客やドライブ客、夏場は海水浴客で賑わう海辺の道の駅。北条産の新鮮野菜や果物が並ぶ産直市の奥には、とれたての鮮魚コーナーが。手づくり弁当やお惣菜は、お昼には売り切れしてしまうことがあるので、午前中がねらい目。夏場は販売店「モンテサント」のアイスクリームをぜひ。

所 愛媛県松山市大浦119
☎ 089-911-7700
🕒 8:30～18:00
🍽 無休(レストランは第2・4木曜)



境内の見どころ



本堂の龍の彫り物

参道の中門の先正面に建つ本堂の中には、長さ4mはあろうかという巨大な龍の彫り物が、まるで本尊を守っているかのように施されている。今にも動き出しそうな躍動感に満ちた龍の彫刻は、一説には名工・左甚五郎の作といわれている。日頃の行いが悪い人がその姿を見ると、目が光って見えるそう。



境内の見どころ



キリシタン灯籠

寛永年間(1624～1644)に建立された、高さ40cmほどの灯籠。山門を入ってすぐの左側にあり、一見したところはわかりにくい、その形状は十字架のようになっており、聖母マリアらしき女性の姿が刻まれている。キリシタン禁制であった江戸時代、寺では信者の礼拝を黙認していたと思われる。



民家が建ち並ぶ街なかにながら、趣のある境内

第53番

須賀山 圓明寺

すがさん しょうちいん えんみょうじ

日本最古の納札とキリシタン灯籠

歴史・全体像

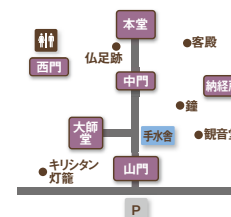
「和気の圓明さん」の愛称で親しまれている。開基は天平勝宝元年(749)、聖武天皇の勅願を受けた行基が、自ら阿弥陀如来を彫って安置したのが始まりといわれている。当時は西山という海岸にあり、弘法大師が巡錫して、四国霊場53番と定めるが、鎌倉時代には度重なる兵火によって焼失してしまう。この地に引越してきたのは、元和元年(1615)のこと。この地の豪族であった、須賀重久が伽藍を再興した。「四国仲遍路同行二人 今月今日平人家次」と書かれた銅製の納札が、アメリカ人の教授によって発見されており、それは慶安3年(1650)のものといわれている。

境内

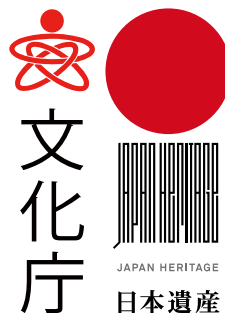
周囲に民家が立ち並ぶ市井の賑わいの中にある圓明寺。ご近所さんが気軽にお参りに訪れるなど、その庶民的な雰囲気が、歩き疲れた遠来のお遍路さんたちの心をほっと和ませてくれる。愛媛県指定有形文化財に指定されている山門(八脚門)をくぐると、大師堂、中門、本堂、観音堂が整然と並んでいるのが見える。十一面観音像が安置されている観音堂は、断絶した国主・河野家の遺臣たちが関ヶ原の戦いに敗れた際、その追善供養のために建立したといわれている。境内の片隅には聖母マリアの像を彫ったキリシタン灯籠があり、キリシタン禁制の名残を今に残している。



美しい中門をくぐると真正面が本堂



御詠歌／らいごうのみだのひかりの
圓明寺てりそふかげはよなよな月
本尊／阿弥陀如来
真言／おん あみりた ていせい から
うん
宗派／真言宗智山派
開基／行基菩薩



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

ここをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



